

第9回基本政策部会 議事要旨

1. 日時

令和2年3月27日（金） 15:00～17:00

2. 場所

中央合同庁舎第8号館8階 特別中会議室

3. 出席者

(1) 委員

中須賀部会長、松井部会長代理、青木委員、石田委員、片岡委員、栗原委員、白坂委員、角南委員、常田委員

(2) 事務局

宇宙開発戦略推進事務局 松尾事務局長、行松審議官、吉田参事官、中里参事官、鈴木参事官、滝澤参事官

(3) オブザーバ

葛西宇宙政策委員長、折木宇宙政策委員、山崎宇宙政策委員、平内閣府副大臣、和泉内閣総理大臣補佐官、山川 JAXA 理事長

(4) 関係府省等

内閣官房 国家安全保障局 富川企画官、内閣衛星情報センター 今西総務課長、内閣府 総合海洋政策推進事務局 森下参事官、総務省 森下宇宙通信政策課長、外務省 山地宇宙・海洋安全保障政策室長、文部科学省 藤吉宇宙開発利用課長、農林水産省 松本技術政策室長、経済産業省 浅井宇宙産業室長、環境省 吉川脱炭素化イノベーション研究調査室長、防衛省松本戦略企画課長

4. 議事要旨 (○：質問・意見等 ●：回答)

(1) 宇宙基本計画（案）について

資料1に基づき、「宇宙基本計画（案）」について事務局からの説明があり、委員より以下の意見があった。本「宇宙基本計画（案）」を基本政策部会としてとりまとめ、宇宙政策委員会に報告することとした。

○工程表について、変化に応じて柔軟に変更することは重要な一方で、継続性とのバランスを意識して取り組む必要がある。

○失敗を恐れず、という姿勢は重要であるが、失敗できないという緊張感も重要であり、両者のバランスも重要である。

○インド太平洋という明確な方向性打ち出されている点、現状把握が適切に行われている点、施策がより具体的になった点は評価できる。

○宇宙は、社会への貢献、というよりさらに強く、実現にコミットしていくべきである。ただし、その際、リソースが問題である。政府予算は欧米に比べて圧倒的に少ないので、予算拡大が必須である。

- 時宜を得たタイミングでの改訂である。宇宙の活動領域拡大に安全保障の観点からも関心をもつことが重要である。これらを支える産業・科学技術基盤も必要である。PDCAを回しながらこれを着実に進めることが重要であり、工程表やロードマップ等で対応を具体化していくことが重要である。
- 宇宙は単独で成り立つ時代ではなく、様々な分野の成長を支える存在となっている。ユーザーニーズを取りこむ視点が重要である。金融面では、まだまだ実験的なフェーズであり規模は小さい。今後は息の長い成長支援が重要である。
- 変化の速さがこれまでとは異次元である。これからも環境変化に柔軟に対応していくことが重要である。宇宙が独立していた時代は終わり、異分野産業と融合している時代である。世界を先導して変えていく姿勢を出していくことが重要である。実現するためには、宇宙予算の拡大が必要である。また宇宙以外の分野との連携も必要である。
- ポストコロナの新しい世界秩序をどのようにつくるか、その中で宇宙がどのような役割を果たすかが重要である。
- 軍事だけでなく、広義の安全保障として宇宙の捉え方が今後重要になる。今後は、実効性とスピード感が重要である。官民だけでなく各省庁間の連携も重要である。政府予算の拡大が重要である。
- これからは宇宙が社会に開かれた実装の時代になるが、実装段階はコストが問題になるケースが多い。ユーザー省庁も含めて省庁間で連携して、予算確保が重要である。

以上